

# 熊取町議会委員会会議録

## 議会改革検討特別委員会

令和2年9月16日開催

熊 取 町 議 会

目 次

〔議会改革検討特別委員会〕	
通年議会について .....	1
その他 .....	4

## 議会改革検討特別委員会

月 日 令和2年9月16日（水曜）招集

場 所 熊取町役場北館3階大会議室

出席委員	委員長	矢野正憲	副委員長	二見裕子
	委員	大林隆昭	委員	浦川佳浩
	委員	田中豊一	委員	鱧谷陽子
	委員	重光俊則		

欠席委員 なし

事務局 議会事務局長 藤原伸彦 書記 瀬野裕三

### 付議審査事件

- 1) 通年議会について
- 2) その他

委員長（矢野正憲君）皆様、こんにちは。

皆様方には、本特別委員会にご出席を賜りまして、ありがとうございます。

なお、本特別委員会では、理事者の出席は求めておりません。

ただいまの出席委員は7名全員であります。定足数に達しておりますので、ただいまから議会改革検討特別委員会を開会いたします。

（「15時00分」開会）

委員長（矢野正憲君）本日の案件は、通年議会についての1件であります。

なお、発言される方は、挙手の上、着座で、マスクはつけたまま、マイクを使っていただきますようお願いいたします。

それでは、案件1、通年議会についてご審議いただきたいと思えます。

本件につきましては、令和2年に入り1月23日に島本町議会及び河南町議会への視察の後、2月27日の本特別委員会において、各会派における議論と意見の取りまとめをお願いしたところでございます。

その間、各会派におきましては、それぞれ勉強、また議論、研究を重ねてこられたことと思えます。つきましては、本日の委員会において、各会派における意見の集約の結果について、委員の皆様方から発言をいただきたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

それでは、順次発言をいただきます。

まず最初に、大林委員。

委員（大林隆昭君）創生くまとりとして、これまでの会議の結果を踏まえて、結論としては、今すぐに通年議会は導入しなくてもいいんじゃないかという結果になりました。まだまだ詰めていかなくてはいけないこともありますし、もう少し意見がまとまってから始めてもいいんじゃないかなというふうに決めました。

委員長（矢野正憲君）ありがとうございます。

今すぐに導入しなくてもいいのではないかと、もう少し意見がまとまってからというふうなご意見を頂戴しました。

次に、浦川委員、お願いします。

委員（浦川佳浩君）会派未来は、通年議会導入における意見をちょっとまとめてきました。読み上げたと思います。

議会改革検討特別委員会における通年議会導入の有無について、会派未来は、以下の理由で、現在の熊取町には導入の必要はなしとの結論に至りました。理由について、以下に述べます。

本町での通年議会導入の是非をめぐり、既に導入されている大阪府下でも希少な2自治体へ赴き、導入に至った経緯などの意見を伺ったところ、行政と議会が対立しており、情報が議員へ下りてきていなかったことや、首長による専決処分が頻繁に行われていたこと。さらには、通年議会導入後も変化はなく、議会が住民へのパフォーマンスの一環として導入していたことなどが理由として上げられ、いずれも本町とは事情が大きく異なっていることが分かりました。

また、熊取町としての見解を職員に伺ったところ、災害など有事の際には、これまでの議会運営のほうが早く対応できるという点や、併せて、議会でも災害時対応として議会BCPの導入を進めている点においても、導入する理由には当たらないと考えました。さらに、議会を開催する必要がある場合には、臨時議会でも対応できるなど、これらの理由により、特に住民に利することもないため、いまだ大阪府下でも4自治体、全国町村議会でも導入が僅か5.8%と非常に少ないことが裏づけられていると感じました。

以上の理由から、これまで検討した結果、通年議会の導入は現在の熊取町には必要がないとの結論に至りました。

以上です。

委員長（矢野正憲君）ありがとうございます。

この間いろいろと議論を交わす中で、やはり通年議会を導入しておる市町村と熊取町を比較したら、導入するまでに必要ないだろうというふうな結果に至ったというふうなことです。分かりました、ありがとうございます。

次に、田中豊一委員。

委員（田中豊一君）大阪維新の会熊取の意見として、通年議会の考え方について説明させていただきます。

我々議会のほうは、やはり住民の利益につながる仕事をしていくというのが第一だということの中で、いろいろ調査、研究をした上で、議会のあるべき姿として、大阪府下またこの近畿圏内でもいち早く議会改革、基本条例とか取り入れた熊取町の先進性を生かすために、また、継承するためにも、通年議会の制度を取り入れるべきだと考えております。

それには幾つか理由があります。

まず、議会の開催のイニシアチブを議会のほうで取るべきだということで、通年議会が必要だということですが。

2つ目に、工事関係、契約関係の案件における速やかな対応としての通年議会が必要だと考えております。特に、近年増加している災害工事への対応として、議会案件の契約案件については、議会の対応が速やかに行われるべきだというふうに考えております。

もう一つは、必要な専決、例えば年度末、深夜まで国会のほうで議論をやっているというようなものは別として、それ以外は、本来議会のフィルターを通して議論した上でなすべき案件だと考えておりますので、通年議会については採用をしていただきたいというふうな意見でございます。

以上です。

委員長（矢野正憲君）ありがとうございます。

維新の会の田中豊一委員から出ましたのは、住民の利益につながるであろうと。議会としてイニシアチブを取ることができる。あとは、工事関係、契約関係で速やかな対応ができるのではないのか。特に、災害の契約とかにすれば、通年議会のほうがより早くできるのではないのかというふうなことです。あと、必要であるから専決をされておるというふうなことでありますけれども、やはり議会のフィルターを通すべしというふうな発言もあったかと思えます。ありがとうございます。

次に、鱧谷委員。

委員（鱧谷陽子君）通年議会については、住民の立場からしても必要だという声はまだ少ないように感

じます。通年議会にしているところも、少額の工事変更や契約、少額の和解及び調整、少額の賠償、年度末の地方税法などの改正に伴う条例改正とか、災害時の補正、緊急な選挙費補正などは、専決処分してもいいとしているところが多いです。先ほども田中委員がおっしゃっていましたが、やっぱり通年議会にすると、集まってもらう間の時間というのはかかるし、緊急の場合には、専決処分してもらったほうが早く物事が行くのかと、その辺はまだちょっと議論すべきところがあるのかもしれませんが、そんなふうを感じたりします。理事者のほうが重要案件などで専決をしてしまったりとかというのであれば、通年議会を考えた方がいいかなというふうには思いますが、議会改革はほかにもいろいろありますし、住民が参加しやすい議会、日曜議会や夜間議会など論議しながら、通年議会の必要性なども調査、研究していけたらいいかなというふうに感じています。

委員長（矢野正憲君）ありがとうございます。

共産党熊取町議員団のほうから、今現在、通年議会というふうなことを導入したほうがいいんじゃないかというような住民の立場からの声はまだ少ないなというのが実感じゃないのかというふうなお話です。あとは、緊急の場合は、逆に通年議会よりも専決のほうが早いのではないのかというふうな判断に至っておられるというふうなことです。

あとは、これには通年議会には直接関係はないんでしょうけれども、議会改革の一環として、日曜議会であるとか夜間議会というようなこともそれぞれ議論されたらどうかというようなことでございました。ありがとうございます。

次に、重光委員、お願いします。

委員（重光俊則君）会派熊愛は、通年議会というのは、議会として不可欠なものであると考えております。現在、定例会が行われて、それ以外は専決処分等で報告がなされていますけれども、議会がその議会運営をやっていくという、主体性を見せるという、持つということは必要であって、災害対応とか新しい制度、今から特にデジタル化等を含めて政治の制度の検討が必要になってくると思うんですが、そういうものをタイムリーに議会にかけて行くと。特にそういうものの重要な項目が専決処分では処理せざるを得ない状況に今のままではなっていくと思いますので、議会の基本姿勢を示すためにも、通年議会を行うべきであると思います。

今、島本町と河南町の視察を行いましたけれども、枚方市とか四條畷市とかそういうところを、その視察対象がやっぱりあまりに通年議会の必要性を感じていないようなところがやっていたんじゃないかなというので、あまり大したメリットある発言を得なかったんですが、やはり四條畷市とか枚方市とかいったところも視察して、その状況の確認を増やすべきだと思います。そうやって、他所のことを学ばないと、今の通年議会はこの程度のものしかやっていないんやという認識のまま、今、熊取町議会議員はそういう方が多いと思うんです。やはり、熊取町議会はその小さなことも含めて、熊取町議会主導でやっていくんだということを示すためにも、通年議会にすべきだと思います。

委員長（矢野正憲君）ありがとうございます。

通年議会は、熊取町議会にとって必要不可欠なものと考えたというふうなことが冒頭ございました。これから、災害対応それからデジタル化というふうなことが進んでくる中で、タイムリーに議会を設けることができるようなそういった通年議会をするべきだったと。それが基本姿勢であろうかというふうなことのご意見でありました。

また、我々は町ですから、視察に行ったところが島本町と河南町というふうな形で、その都度その都度皆様に賛同いただきながらやってまいりましたけれども、町ではなくて市のほうも行ったほうがよかったのではないのかというふうな話もございました。四條畷市と枚方市ですか。これはまた、今後の一つのテーマになるのかもしれませんが、そういうふうなご意見もいただいたというふうに受け止めてございます。ありがとうございました。

次に、二見副委員長。

委員（二見裕子君）熊取公明党といたしましては、通年議会となれば専決処分というのは基本なくなる

という方向では聞いておりますし、議会がイニシアチブを取れるということもいいのかなというふうには思っているんですが、通年議会であっても、災害対応に関しては専決を取っていかないといけないとかというふうなことを考えますと、やはり本当に通年がいいのかということも考えていかないといけないかなというふうに思いますので、もう少し、皆様賛成の意見であったりとか、やらないほうがいいのかというおっしゃる意見もありますので、もう少し皆様でしっかりと審議していく時間が必要じゃないかなというふうに思っております。

以上です。

委員長（矢野正憲君）ありがとうございます。

副委員長のほうからは、通年議会を導入することによって専決処分をなくすことができる。そして、議会のほうがイニシアチブを取ることができるというふうなメリットがある反面、災害対応でも専決のほうが早かったりするようなこともあるんじゃないかというふうなお話も議論している中では出ておりましたので、そういったことも踏まえて、もう少し賛成も反対も踏まえながら、審議をできたかなというふうなお話でございました。ありがとうございます。

以上、委員皆様からのご意見を賜りましたが、これらについて何か質疑やご意見等があればいただきたいなというふうに思っておりますが、もうご遠慮なく言うていただければなというふうには思います。何か質疑や聞きたいことがあれば、ご意見等があれば承りますが、よろしいですか。重光委員。

委員（重光俊則君）市の例を示したんですけれども、やはり通年議会の情報があまりにも少ないと思うんです。だから、その辺をもう少し収集して、できればメンバー皆さんに紹介するという形ででも、情報をたくさん共有できるようにしたほうがいいなと思います。

委員長（矢野正憲君）ありがとうございます。

情報を提供する中で、町だけではなくて市のほうも、具体的に四條畷市と枚方市ということが出ておりましたので、それはそれでまた情報提供させていただくというような形を取らせていただきたいなと思っておりますので、その辺でよろしいですかね。よろしいでしょうか。

あと、ほかに何かあれば承りますが、よろしいですか。

ただいまの皆様のご意見、発言でございますが、通年議会の導入につきましては、肯定的なご意見と、それからもう少し時間をかけて議論をされるべきじゃないのかというふうな双方のご意見で、状況があったように思っております。そういった中で、通年議会の要否、導入するのか導入しないのかというふうなことを、今日この場、現時点において決することは少し時期尚早ではないのかなというふうに考えてございます。先ほどいろいろな、町以外のものも情報提供というふうなこともありましたけれども、今後もお引き続いて、通年議会の導入の要否につきましては、議員間において研究、検討を重ねて、議論をなお一層深めていくべきかなというふうに考えてございます。

したがいまして、通年議会については、なお継続をして調査をして行っていきたいというふうに考えておるんですが、この考え方に異議はありませんか。いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

よろしいですか。異議がないようですので、通年議会については、なお継続して調査を行うというふうなことにしていきたいなというふうに思っております。

通年議会については、以上で本件の案件という形では終了させていただきます。

---

委員長（矢野正憲君）次に、その他。今日レジュメにその他というふうな形がありますけれども、その他として、私のほうから報告をしたいことがございます。

先ほど議論をしていただきました通年議会については、9月の定例会の最終日において、本委員会の報告を行うものですが、次の2件についても報告をしたいというふうに思っております。

1件目は、タブレット端末の導入についてでございます。タブレット端末の導入と、これによる議会資料のペーパーレス化については、去る2月27日の当委員会において決定をさせていただきます。

委員会報告書を議長宛てに提出した後、6月定例会での補正予算における予算措置をしていただいております。事務局において、導入に向け事務を進めてございまして、12月定例会よりタブレット端末によるペーパーレス化が本格的に導入をされる。このことについて、報告をいたします。

2件目は、議員定数及び議員報酬についてでございます。

議員定数及び議員報酬については、本特別委員会の設置後、全議員の考え方や意見について、アンケートという形で取りまとめを行ってございます。引き続き、議論を重ねていく旨の報告をいたしたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いをいたしたいと思っております。

この2件について、委員の皆様から何かありましたら承りたい、このように考えておりますが、通年議会のことと、報告の2つ、タブレットの導入のことと、議員定数削減と議員報酬の件、これは引き続きやっていきますよというような報告を9月の最終議会のほうで、10月2日にするというふうなことなんでありますけれども、これについて何かご意見等があれば承ります。重光委員。委員（重光俊則君）タブレットについては、この12月からの導入ということで問題ないと思っております。

定数と報酬については、今の一時的な段階で議長がまとめてもらえると思うんですが、それを配付、説明した後、できるだけ速やかに議論の場を持つということでやっていただければと思います。委員長（矢野正憲君）私に与えられた議長としての任期というのが、来年3月になります。それまでに結果というのはなかなか厳しいとは思いますが、与えられた任期の中での議論、こういうふうな委員会であるのか、準備会であるのかは別にして、その辺はしっかりと進めていきたいなというふうには思っておりますので、よろしくお願いいたします。

10月2日の9月定例会の最終日の報告というのは、先ほど言いましたがタブレットのことと、引き続き議員定数と報酬の件についてはこの委員会でやっていきますというような、そういうふうな報告をさせていただくというような形でございます。それでよろしいですかね。

（「はい」の声あり）

ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。

ほかに何か皆様からご意見等、何かあれば承りますが、なければもうこれで終わりに終わってしまうんですが、よろしいですか。

（「はい」の声あり）

ないようですので、以上で議会改革検討特別委員会を閉会いたします。お疲れさまでございました。ありがとうございました。

---

（「15時25分」閉会）

---

以上の委員会の次第は議会事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

議会改革検討特別委員会委員長

矢野正憲